



松浦市長の

スマイルボタン



新庁舎整備事業は、本市の将来を見据えた重点事業として、これまで、議会や市民の皆様と真摯に議論を重ね、取組を進めてまいりました。その事業費について、令和7年3月の庁舎整備基本計画では概算約125億円としていましたが、現時点で、全体で167億円程度の事業費を見込んでいます。面積の精査など可能な限りの事業費削減に努めてきましたが、昨今の物価・労務費の上昇などの影響によるものです。

そのような中、先の市議会9月定例会において、新庁舎建設に係る133億円余の補正予算案(債務負担行為)を提案し、可決いただきました。議員の皆様の真摯なご審議に、心より感謝申し上げます。

東庁舎の新築建替え方針は、令和7年3月の市議会で表明しておりましたが、予算が成立しなければ着工には至りません。平成28年1月に策定された「湖南市東庁舎周辺整備計画」から数えれば、実に10年の歳月をかけて進めてきた大事業です。

私は令和6年10月の市長選挙の際、「庁舎のことは、まだ十分にお聞きできていない若い世代の意見

を聞き、判断したい」と訴えてまいりました。これを形にしたのが、令和6年12月に開催したタウンミーティングです。この取組を契機として、庁舎整備をはじめ、これからのまちづくりについて幅広い世代の声を丁寧に聞き取る姿勢が、湖南市に深く根づいてきたと感じています。

今回、予算案を議会に提案するにあたっては、内心、大きな緊張感と責任を感じておりました。昨今の物価高騰や、不安定な世界情勢に翻弄される経済状況のなかで、「本当に今、新庁舎を建設して大丈夫なのか」と、市民の皆様が心配されるのは至極当然のことだからです。

しかし、これまでに蓄えてきた基金と、先を見据えた計画に対し、議会からも「これからの湖南市において、災害対応の拠点となり、市民の皆様が集える新庁舎は不可欠だ」という力強い後押しをいただきました。

安心で豊かな湖南市を次の世代へ引き継ぐために、持続可能な財政運営との両立を図りながら、責任を持って、この事業を着実に進めてまいります。